

# 目黒哲也 通信

市政について皆様の声を  
ぜひお聞かせください!



●発行人 目黒哲也

●連絡先 目黒哲也後援会事務所

所属委員会・社会厚生委員会 委員長・議会運営委員会・議会広報編集特別委員会・都市計画審議会  
・新潟県後期高齢者医療広域連合議会議員・魚沼地域特別養護老人ホーム組合議会議員

〒949-6612 新潟県南魚沼市東泉田1076-1 TEL 025-773-6253  
携帯 090-4011-7563 E-mail kinseikan.tetsuya430623@gmail.com

目黒哲也  
公式ホームページ  
こちらから➡



目黒哲也通信のバックナンバーを希望される方は、メールあるいは電話にてお気軽にご連絡ください

## ごあいさつ

皆様には、日頃から市政へのご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

1月22日から県内で初めて適用された「まん延防止等重点措置」が3月6日をもって終了しました。44日ぶりに市街地に明かりが戻りました。

事業者の皆さんも、市民の皆さんも苦しい44日間であったことと察します。しかし今なお、その苦悩は続いております。

同じように、子どもたちも行事は次々に中止になり、楽しい給食も前をみて座り、黙食が続き、学校も休校になったりと、心身共に苦痛に耐えていることと思います。

それでも雪の日も、雨の日も、そして今日も、前をみて元気に登校している姿をみて、私たちは子どもたちに何を伝え、未来に何を残すのか。

改めて我が使命を自覚し、責任の重さを感じております。

子どもは大人の背中をみて育つという言葉があります。

3月5日に裸押し大祭が開催されました。「まん延防止等重点措置」の期間中での開催は、数多くのハードルがあったことと思います。それら乗り越え、感染予防対策を徹底して開催されたことは、地域に明るさと元気を与えて下さいました。多門青年団並びに実行委員、多門青年団OBはじめ関係者の皆様に敬意を表しますとともに、多門青年団長の覚悟と勇気に胸を熱くする思いであります。子どもたちにも、きっと伝わっているはずです。

裸押し大祭は青年団から次の青年団に脈々と引き継がれていく、この伝統こそひとつづくりであり、まちづくりでないかと実感致しました。

そして今、社会経済は、ウイズコロナでもなく、アフターコロナでもなく、ポストコロナでもない、人間の力と和で、コロナを乗り越える「ビヨンドコロナ」の段階にきているのではないのでしょうか。



社会厚生委員会

3月議会において下記の一般質問を行い、皆様のお声を市政にお届けいたしました。質問と答弁は以下の通りです。(一部抜粋)

南魚沼市議会 録画配信 検索

右のQRコードをスマートフォンなどで読み取ると、一般質問の録画映像をご覧いただけます。



## 未来を担う「ひとづくり」構想について

**目黒** 未来に向けて、**幼児教育・保育・学校教育を一元化する組織の体制を検討すべき**では。

**市長** 幼児教育・保育と学校教育を一元化する組織の体制は、もう舵を切って進めてきている。

常に課題は山積しているが、その都度、事業の改善や見直しを行いながら、必要に応じて、柔軟に体制の見直しや機構改革を行ってきている。今後もその姿勢に変わりはない。

**目黒** これまで教育部局を市民会館に移設や子ども家庭サポートセンターの設置など教育の充実を図ってきているが、**子どもたちを支える担い手と公的部門が現状では分化している**のでは。

**市長** 幼児教育・保育、学校教育においても、幼児期の子育て支援課、義務教育期の学校教育課に加え、機構改革によって、子ども家庭サポートセンターを立ち上げ、また子ども若者相談支援センターを拡充し、進めてきている。

加えて、イオンモールに子育ての駅「ほのほの」を設置した。それぞれが連携をして、子どもたちへの教育や支援を行っていると考えている。

このほか、様々な支援を行うために、福祉課、保健課、社会福祉協議会や民生児童委員、外部の機関との連携協働が必要である。これらを**すべて一元化することは難しいが、提言されている包括的な教育支援体制が機能するような体制づくりを進めて参りたい。**

**目黒** 改めて**保育園の再編計画**を示す必要があるのでは。

**市長** 保育園の再編については、**園児数の減少などによる見直しを行いながら、計画的に進めている。**

**目黒** 令和元年に民間とともに、南魚沼幼児教育・保育のあり方検討委員会を立ち上げて、南魚沼市幼児教育・保育ビジョンを作成した際に、保育園の適正配置の課題も上がったと思うが、その時に、**今後の再編等々について民間の保育園の皆さんと共有されたのか。**

**子育て支援課長** 私立の園の方々とも、その当時、**今後の保育の進め方については共有している。**今後も様々、検討して参りたい。

**目黒** 同じく改めて**小・中学校の再編計画**を示す必要があるのでは。

**市長** 南魚沼市立の学校の再編については、平成20年に学区再編検討委員会からの最終答申で示された学校の適正規模に基づき、小・中学校の統廃合を進め、概ね達成できている。

しかし、今の時点での出生数に基づく推計では、将来的に適正規模を満たさなくなる恐れがあることが判明している。**将来を見込んだ、再度の検討を行う必要が現在、発出している**と思っている。

**目黒** **小・中学校の学力の向上への検討が必要ではないか。**

**教育長** 学力の向上は、小中学校の教育において、最も重要な課題の一つである。

学力の向上には、**教員の指導力向上に加え、児童生徒の家庭学習の習慣と読書習慣の定着が必要である。**

さらに、現在の学習内容に適した**教育環境の整備**など、様々な改善が必要であると考えている。

**目黒** **支援体制の取組み**は。

**教育長** 教員の指導力向上については、この地域特有の状況として、経験の浅い若手教員が多いという状況を踏まえて、**学習指導センターを中心とした支援体制の充実が、さらに必要である**と考える。

そのため、来年度からは小学校の英語学習やICTを活用した事業展開など、**新たなニーズに対応する指導主事の配置を予定している。**

**目黒** 学力向上には、**学習環境として2クラス以上が必要**であると考えているが。

**教育長** それぞれが高め合う、切磋琢磨する、そして豊かな関係づくりを進めるという点で、**2学級以上が望ましい。**

**目黒** **学習状況改善への検討が必要ではないか。**

**教育長** 児童生徒の家庭学習習慣の定着については、各学校において、**定期的に家庭学習の強化週間の取り組みを行う**など、家庭学習時間が一定程度定着するように粘り強く指導している。

その取り組みの1例として、大和中学校では**定期テスト制から、単元テスト制へ変更した。**従来から行っている中間・期末テストではなくて、一つの単元が終わるごとにテストを行うことで様々な教科で順次テストが実施されることで、生徒が日常的にテストのための学習を一生懸命に続けることになる。この取り組みも家庭学習の時間を確保するという成果に期待している。

**目黒** 家庭学習について、家庭に児童書がどのくらいあるかによって学力の差が出るとのデータが示されている。そのため、**小学校の先生と保育士との連携を強化して、幼児の段階から家庭学習の習慣をつくっていくことと、合わせて保護者への学びにもなるため必要では。**

**教育長** 読書は、幼児教育だけでなく、小・中学校教育においても大事だと考えて取り組んでいる。**幼児教育と、学校カリキュラムとを、しっかりと接続できるように取り組みが必要**であろうと考えている。

**目黒** **教育環境の整備状況**は。

**教育長** 教育環境の整備については、**GIGAスクール構想に基づき環境整備が完了している。**教育用端末の持ち帰りによる活用を段階的に進めている。教育用端末と連動して活用する**電子黒板**については、まだまだ教育環境の充実に向けた整備が必要と考えている。

**インターネット環境がない家庭への支援方法**など、対応しなければならない課題もある。

すべての児童・生徒が等しく学習できるように、今後も学習環境の充実を図りながら、学力の向上と学習状況の改善を図って参りたい。

**目黒** **市独自のライフキャリア教育を構想し、推進していくべき**では。

**教育長** これまで行われているキャリア教育は仕事を中心

とする、ワークキャリア教育といえる。ライフキャリア教育は、それをより総合的に展開する考え方であると考え

**目黒** ライフキャリア教育を取り入れて、学力が向上した事例もある。今後、ライフキャリア教育への取り組みは考えているか。

**教育長** ライフキャリア教育という視点は、学校教育において大切である。様々な探求的な活動、総合的な学習など見直してやる必要があると思った。

南魚沼市では、それぞれの学校の取り組みを特色ある学校づくり推進事業として支援している。これからは子どもたちの人生がより豊かなものになるように、生涯にわたって学び続ける力を育てながらライフキャリア教育に努めて参りたいと考えている。



# バイオマスタウン構想について

**目黒** バイオマスタウン構想の進捗は。

**市長** 南魚沼市バイオマスタウン構想は、平成21年2月に策定されて以来、見直しや改定は行ってない。民間企業の事業撤退や市の有機センターの利用状況の変化などがあり、見直しの必要性を感じながらも具体化することができなかった。

まずは国の進める脱炭素への地球温暖化対策実行計画の見直しが優先である。

**目黒** これから新ごみ処理場建設が予定されているが、完成が10年後、それから50年くらいは稼働していくわけなので、バイオマスタウン構想の再計画など、先を見越した建設計画が必要では。

**市長** 十分検討していく。

**目黒** ディスポーザーの設置普及に努めているのか。

**市長** 直接投入型のディスポーザー設置を認めている自治体は全国1800を超える自治体の中で23自治体である。県内では、当市が唯一である。

令和元年度には、ディスポーザー使用料、月500円を廃止して、設置に対するハードルを最大限引き下げた。

また、設置に対する補助として、みんなスマイル改修補助金の補助対象としている。

**目黒** 現在、市内の設置数は64台と少ないのでは。

**市長** 専門業者によるシンクの改造や電気工事などが必要となるため、費用面など設置に係るハードルがまだまだ高いと思っている。

**目黒** 先日、六日町地域づくり協議会でチラシを市報に差し込んだら反響が大きかったが。

**市長** ディスポーザー設置は降雪時のごみ出しの問題やごみ処理場の負荷の問題などを解消する大きな力を持っているので、メリットを広く伝えていって欲しい。

**目黒** ごみ処理基本計画減量化推進計画の中間見直しでディスポーザーの設置を推進し、生ごみの減量化を図ると計画してあるが、現在、市では、電気式生ごみ処理機について補助をつけているが、ディスポーザーは対象ではない。対象にすべきでは。

**市長** リフォーム補助で対象にしている。これは県内でも例がない。十分検討させていただきたい。

## めぐろの国

キーワード⑦ 未来を担う「ひとづくり」構想

「教育」こそ「未来」、言い換えれば「ひとづくり」こそ「まちづくり」と私は考えます。

現在は、子育てや教育に対するニーズは多様化・高度化し、「発達障がいなどの相談・支援強化」、「乳幼児教育の充実」、「幼保小連携」、「学校教育のICT化」など新たな課題への対応、「いじめ・不登校対策」、「地域での青少年健全育成の充実」など、様々な課題が山積している状況の中、教育が果たすべき役割は、より大きなものになってきています。

それは教育が、ひとづくり、そして社会づくりへの役割を、これまでも増して担っていくことが期待されているからであります。

そして、その時に求められるのは、これまでの教育の良いところを踏まえつつ、未来に向けて、より創造的に、これからの教育の在り方を示していくことが必要であると考えます。現在は、幼児教育・保育は厚生労働省、学校教育は文部科学省が管轄なため、どうしても縦割りになってしまっています。

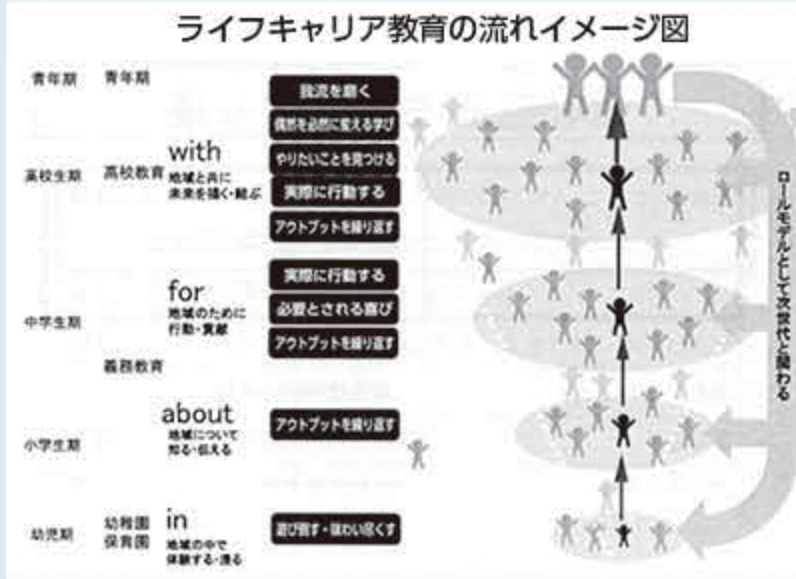
人口減少を克服するための少子化対策を推進するには、従来の延長線では不十分であり、そのためには、専門性の強化と関係者の連携の重要性は、より一層高まってきております。

そこで、こどもセクション（幼児教育・保育・学校教育）を教育委員会に一元化して、多様な人材の連携とネットワークを強化し、新たな時代に対応できる体制を構築すべ

きであると考えます。さらに一元化することにより、こどもの育ちと大人の学びの充実を一体的に展開すべきであります。

加えて、自分の人生を能動的に生きていくことができる力を育むライフキャリア教育を推進していくべきではないかと考えます。

時代と共に、私たちの環境は変わり、状況も変わっていきます。昔の大人たちでは、想像できなかった未来が現在あり、私たちが見ることでできない未来を子どもたちは生きていきます。そうした中で価値観も変化していきますし、職業そのものの種類や在り方も変わっていきます。「何をやりたいか」から「どうありたいか」、「夢は何か」から「どう生きたいか」、「どの職業につきたいか」から「どんな風に暮らしたいか」、「働く意義」から「生きる喜び」と、これまでのワークキャリア教育から、これからはライフキャリア教育がより大切になってきています。実際にライフキャリア教育を推進したことによって、学習意欲が高まり、学力も向上した自治体もあります。

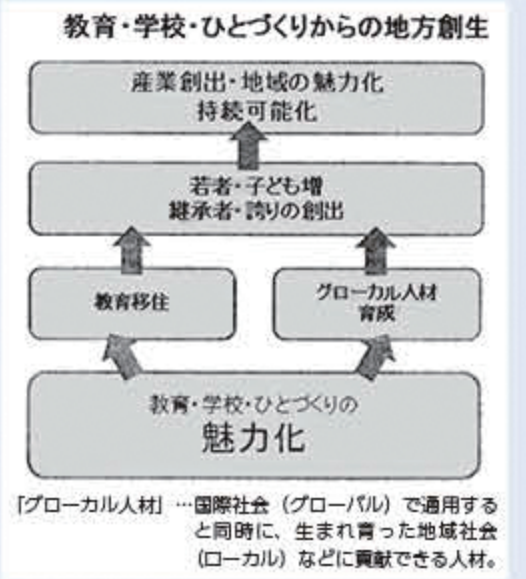


子どもの発達段階に応じて地域・社会・自然等々との関わりを通して、ここで育った人材が地域で活躍することを目指していくべきです。

当市には、国際大学があります。国際大学がグローバルな育成の環境を整えます。

教育・学校の魅力づくりは、ひとづくりであり、魅力を感じた方々の教育移住にもつながります。若者・子どもが増え、また誇りの創出となり、将来、地域の継承者となり、産業が創出され、地域の魅力化が拡がり、持続可能なまちになっていくと考えます。

当市は、令和5年度に、全市立学校へコミュニケーションスクール（地域運営学校）が導入されます。私が20年前にPTA会長を務めた時に掲げたスローガンであります「子どもは家庭で育て、学校で鍛え、地域で磨く」。子どもたちの育ちを家庭、学校、行政、地域が一体となって守り、育てていくことが最も大事であると考えます。



【グローバル人材】…国際社会（グローバル）で通用すると同時に、生まれ育った地域社会（ローカル）などに貢献できる人材。

南魚沼市立総合支援学校の子どもたちが作った素敵なお皿を購入してきました。

2022年 3/19~21  
e-ファットバイク 冬の新たなアクティビティに!

↑準備中の様子  
↑鷲尾英一郎代議士と金誠館にて

宝石のみのわ会長眞輪行泰氏の「ココロとカラダにいいラジオ・ファイブ」に出演